



2025年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年5月15日

上場会社名 テスホールディングス株式会社 上場取引所 東
コード番号 5074 URL <https://www.tess-hd.co.jp/>
代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）山本 一樹
問合せ先責任者 （役職名）執行役員管理本部長 （氏名）平倉 正章 TEL 06-6308-2794
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2025年6月期第3四半期の連結業績（2024年7月1日～2025年3月31日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2025年6月期第3四半期	26,788	17.2	2,669	28.8	225	△94.0	616	△74.3
2024年6月期第3四半期	22,858	△4.9	2,073	△51.3	3,771	3.4	2,398	3.0

（注）包括利益 2025年6月期第3四半期 3,081百万円（11.2％） 2024年6月期第3四半期 2,770百万円（10.1％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年6月期第3四半期	8.74	8.73
2024年6月期第3四半期	34.03	33.98

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2025年6月期第3四半期	149,800	43,638	29.0
2024年6月期	119,128	41,796	34.9

（参考）自己資本 2025年6月期第3四半期 43,369百万円 2024年6月期 41,512百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年6月期	—	0.00	—	16.00	16.00
2025年6月期	—	0.00	—	—	—
2025年6月期（予想）	—	—	—	7.66	7.66

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年6月期の連結業績予想（2024年7月1日～2025年6月30日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
通期	百万円 38,000	% 24.0	百万円 2,700	% 13.9	百万円 400	% △94.8	百万円 700	% △41.0	円 銭 9.93

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：有

新規 2社 （社名）合同会社福岡みやこソーラーパワーを営業者とする匿名組合、テスロジスティクス合同会社

除外 1社 （社名）－

（注）第1四半期連結会計期間に合同会社福岡みやこソーラーパワーを営業者とする匿名組合に係る出資持分の全部を取得し、連結の範囲に含めております。なお、みなし取得日を6月30日としており、第1四半期連結会計期間は貸借対照表のみ連結し、中間連結会計期間より損益計算書を連結しております。

また、テスロジスティクス合同会社を8月26日に設立し、第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。なお、みなし取得日を9月30日としており、中間連結会計期間は貸借対照表のみ連結し、当第3四半期連結会計期間より損益計算書を連結しております。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（注）詳細は、添付資料P.11「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記）」をご覧ください。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年6月期3Q	70,644,130株	2024年6月期	70,644,130株
② 期末自己株式数	2025年6月期3Q	130,156株	2024年6月期	130,156株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2025年6月期3Q	70,513,974株	2024年6月期3Q	70,470,566株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：有（任意）

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 6「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	6
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	9
第3四半期連結累計期間	9
四半期連結包括利益計算書	10
第3四半期連結累計期間	10
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	11
(セグメント情報等の注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	13
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	13
独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書	14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国の経済は、世界的な資材価格やエネルギー価格の高騰、ウクライナ情勢の悪化、円安による影響等、依然として景気の先行きの見通しが難しい状況が続いております。

当社グループが事業を行うエネルギー業界においては、2015年の国連による持続可能な開発目標（SDGs）（※1）の提唱や、パリ協定（※2）締結を契機に、引き続き世界的にエネルギーの脱炭素化に向けた取り組みが加速しております。日本においても、2025年2月に閣議決定された第7次エネルギー基本計画（※3）では、2050年カーボンニュートラルの実現と、2040年度の新たな温室効果ガス排出削減目標（2013年度比73%削減）に向けたエネルギー政策の道筋が示されました。引き続き徹底した省エネルギーの更なる追求が求められると共に、2040年には国内電源構成に占める再生可能エネルギーの割合を40～50%程度（2023年度は22.9%）にする目標が掲げられております。また、同時にGX2040ビジョン（※4）及び地球温暖化対策計画（※5）が閣議決定され、エネルギー基本計画と一体的にエネルギー安定供給確保、経済成長及び脱炭素を同時実現するための長期戦略が示されました。

このような外部環境の中、当社グループは、「Total Energy Saving & Solution」の経営理念のもと、「再生可能エネルギーの主力電源化」「省エネルギーの徹底」及び「エネルギーのスマート化」の3つの事業領域に注力しながら事業を展開しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は26,788百万円（前年同期比17.2%増）、営業利益は2,669百万円（前年同期比28.8%増）、経常利益は225百万円（前年同期比94.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は616百万円（前年同期比74.3%減）となりました。

この内、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益の主な減少要因につきましては、「2）デリバティブ評価損（営業外費用）及び法人税等調整額（益）の計上について」に記載のとおり、デリバティブ評価損1,816百万円を営業外費用に計上したこと及び「3）合同会社福岡みやこソーラーパワーを営業者とする匿名組合の連結子会社化に伴う匿名組合投資利益（営業外収益）、負ののれん発生益（特別利益）、段階取得に係る差損（特別損失）の計上について」に記載のとおり、合同会社福岡みやこソーラーパワーを営業者とする匿名組合の連結子会社化に伴う段階取得に係る差損292百万円を特別損失に計上したこと等によるものであります。

1) セグメントごとの経営成績について

①エンジニアリング事業

（受託型）

省エネルギー系設備における顧客の省エネ、コスト低減、環境対策等のニーズに応じたエンジニアリング、再生可能エネルギー系設備の一部における、顧客取得のFIT認定やFIP認定（※6）を活用した発電施設や自家消費発電設備のエンジニアリング等、顧客からEPCを受託する形態であり、受託したEPCによる売上を一定の期間にわたり収益を認識する方法に従って計上しております。

当第3四半期連結累計期間においては、脱炭素ニーズ等の高まりにより、コージェネレーションシステム（※7）や燃料転換設備（※8）、ユーティリティ設備（※9）等の省エネルギー系設備に関するEPCにつきましては、前年同期比で工事件数が増加し、案件規模が拡大いたしました。一方、太陽光発電システムやバイオマス発電システム等の再生可能エネルギー系設備に関するEPCにつきましては、工事件数の減少により売上は前年同期比で減少いたしました。エンジニアリング事業（受託型）全体としては、前年同期比で売上が増加いたしました。

（開発型）

当社グループが用地取得（又は賃借）、許認可及び権利等の取得、EPC等を主体的に関与し、開発に関する一連のソリューションを顧客に提供する形態であります。

前第3四半期連結累計期間は開発型による新規EPCが無かったことに対し、当第3四半期連結累計期間は鹿児島県におけるFIT制度（※10）を活用した太陽光発電所（発電容量約8.0MW）のEPCによる売上を一定の期間にわたり収益を認識する方法に従って計上したことから、前年同期比で売上が増加いたしました。

以上の結果、エンジニアリング事業につきましては、売上高は11,811百万円（前年同期比26.5%増）、セグメント利益は775百万円（前年同期はセグメント損失4百万円）となりました。

なお、セグメント間の内部売上高又は振替高を含む売上高は13,199百万円（前年同期比9.0%増）となりました。

②エネルギーサプライ事業

(再生可能エネルギー発電所の所有・運営・売電)

太陽光発電所を中心として、FIT制度又はFIP制度(※11)を活用した再生可能エネルギー発電所やFIT制度又はFIP制度を活用しないオンサイトPPAモデル(※12)による再生可能エネルギー発電所の所有・運営・売電を行っております。

当第3四半期連結会計期間末における再生可能エネルギー発電所の件数及び発電容量は、当第3四半期連結累計期間にオンサイトPPAモデルにおける電力供給サービスを新たに供給先18件、約19.6MWを開始したことにより、下表のとおりとなりました。

当第3四半期連結累計期間においては、「福岡みやこメガソーラー発電所」(所在地：福岡県京都郡みやこ町、発電容量：約67.0MW)を運営する合同会社福岡みやこソーラーパワーを営業者とする匿名組合の匿名組合出資持分全部を取得し連結子会社化したこと等、連結子会社の保有分における件数及び発電容量が増加したことから、前年同期比で売電収入に伴う売上が増加いたしました。

	前第3四半期 連結会計期間末		当第3四半期 連結会計期間末		増減	
	件数 (件)	発電容量 (MW)	件数 (件)	発電容量 (MW)	件数 (件)	発電容量 (MW)
連結子会社の保有分	87	226.1	114	320.4	27	94.2
内、FIT制度及びFIP制度	67	196.7	67	265.6	0	68.9
内、オンサイトPPAモデル	20	29.4	47	54.8	27	25.4
当社グループ出資先の保有分(※)	12	88.1	11	29.2	△1	△59.0
合計	99	314.3	125	349.5	26	35.3

(※) 当社グループ出資先の保有分は、持分法適用関連会社及び匿名組合出資を行う合同会社を営業者とする匿名組合であります。また、当社グループ出資先の保有分は、全てFIT制度を活用した再生可能エネルギー発電所による件数及び発電容量であります。

(オペレーション&メンテナンス (O&M))

顧客企業との定期契約によるメンテナンス業務及び24時間遠隔監視サービスに加え、不定期に発生するメンテナンス業務(消耗品の交換や法定検査等によるメンテナンス業務等の発生の予想可能なものと、顧客設備の故障による修理・交換等のメンテナンス業務等の発生の予想困難なもの)を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、大型O&M案件の契約満了に伴う不定期に発生するメンテナンス業務等が前年同期比で減少したことから、前年同期比で売上が減少いたしました。

(電気の小売供給)

北海道、東北、東京、中部、北陸、関西、中国、四国及び九州の9電力エリアにて法人顧客向けに電気の供給を行っております。また、デマンドレスポンス(DR)(※13)技術やバーチャルパワープラント(VPP)(※14)技術を用いて、需要側が所有する分散型エネルギーリソース(※15)を取りまとめし、調整力として供給するERAB(※16)サービスのほか、コージェネレーションシステムを運用する顧客に対して行う燃料供給サービスを行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、顧客向けの電力料金が日本卸電力取引所(JEPX)のスポット価格と連動する市場連動型メニューによる供給量が拡大したことに加え、電力価格が上昇したことから、前年同期比で売上が増加いたしました。

(資源循環型バイオマス燃料供給)

日本国内のバイオマス発電所に向けたPKS(※17)燃料販売事業を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、出荷量が前年同期比で増加したことから、前年同期比で売上が増加いたしました。

以上の結果、エネルギーサプライ事業につきましては、売上高は14,976百万円(前年同期比10.8%増)、セグメント利益は2,082百万円(前年同期比14.4%増)となりました。

なお、セグメント間の内部売上高又は振替高を含む売上高は14,977百万円(前年同期比10.8%増)となりました。

2) デリバティブ評価損(営業外費用)及び法人税等調整額(益)の計上について

当第3四半期連結累計期間において、デリバティブ評価損1,816百万円を営業外費用に計上いたしました。これ

は、当社の連結子会社である株式会社伊万里グリーンパワーが行う大型バイオマス発電事業（所在地：佐賀県伊万里市、発電容量：46.0MW）で使用するPKS燃料調達に係る為替変動リスクをヘッジする目的のために締結している為替予約の時価評価により生じたものであります。また、上記デリバティブ評価損の計上に伴う繰延税金負債の取崩しにより、当第3四半期連結累計期間において法人税等調整額（益）622百万円を計上いたしました。詳細につきましては、2024年11月5日に公表いたしました「営業外費用（デリバティブ評価損）及び法人税等調整額（益）の計上に関するお知らせ」をご参照ください。

3) 合同会社福岡みやこソーラーパワーを営業者とする匿名組合の連結子会社化に伴う匿名組合投資利益（営業外収益）、負ののれん発生益（特別利益）、段階取得に係る差損（特別損失）の計上について

当第3四半期連結累計期間において、匿名組合投資利益328百万円を営業外収益に、負ののれん発生益471百万円を特別利益に、段階取得に係る差損292百万円を特別損失に計上いたしました。これらは、2024年8月1日付で当社の100%子会社であるテス・エンジニアリング株式会社によって、太陽光発電事業（所在地：福岡県京都郡みやこ町、発電容量：約67.0MW）を行う合同会社福岡みやこソーラーパワーを営業者とする匿名組合（以下「みやこ匿名組合」といいます。）に係る匿名組合出資持分全部を取得し、みやこ匿名組合を当社の連結子会社としたことに伴い生じたものであります。詳細につきましては、2025年2月12日に公表いたしました「（開示事項の変更）「営業外収益、特別利益及び特別損失の計上に関するお知らせ」の内容の一部変更に関するお知らせ」をご参照ください。

4) 投資有価証券売却益（特別利益）の計上について

当第3四半期連結累計期間において、投資有価証券売却益513百万円を特別利益に計上いたしました。これは、当社の連結子会社であるテス・エンジニアリング株式会社が保有する投資有価証券の一部を売却したことに伴い生じたものであります。詳細につきましては、2024年11月5日に公表いたしました「子会社による特別利益の計上に関するお知らせ」をご参照ください。

（※1）持続可能な開発目標（SDGs）：

2015年9月に国連で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で発展途上国のみならず先進国自身が取り組むべき事項として掲げられた国際社会共通の目標であり、エネルギー、経済成長と雇用、気候変動等に対する取り組みをはじめとして計17の目標にて構成されております。

（※2）パリ協定：

第21回気候変動枠組条約締約国会議（COP21）にてCO₂排出量に削減目標を定める温暖化対策の世界的枠組みとして日本を含め196の国々による合意に基づき2015年12月に採択された国際協定であります。

（※3）エネルギー基本計画：

エネルギー政策基本法第12条に基づき制定される、エネルギーの需給に関する施策の長期的、総合的かつ計画的な推進を図るためのエネルギーの需給に関する基本的な計画のことであります。

（※4）GX2040ビジョン：

将来の見通しに対する不確実性が高まる中、GX（グリーントランスフォーメーション）に向けた投資の予見可能性を高めるため、より長期的な方向性を示すものであります。

（※5）地球温暖化対策計画：

地球温暖化対策推進法に基づく政府の総合計画で、温室効果ガスの排出抑制及び吸収の量に関する目標、事業者・国民等が講ずべき措置に関する基本的事項、目標達成のために国・地方公共団体が講ずべき施策等について記載されているものであります。

（※6）FIT認定やFIP認定：

「再生可能エネルギー電気の利用の促進に関する特別措置法」に規定される、経済産業大臣による再生可能エネルギー発電事業計画の認定のことであります。

（※7）コージェネレーションシステム（CGS：Co-Generation System）：

分散型エネルギーリソースの一つで、発電と同時に発生する熱を冷暖房や生産プロセスに利用する熱電併給システムのことであります。CHP：Combined Heat & Powerと称される場合もあります。

（※8）燃料転換設備：

工場の熱源として利用する燃料を石油から天然ガスへ転換するための設備のことであります。

（※9）ユーティリティ設備：

工場の生産設備の稼働に必要な電気、蒸気、水、圧縮空気、燃料等を供給する設備のことであります。

（※10）FIT制度：

「再生可能エネルギー電気の利用の促進に関する特別措置法」に基づき、太陽光、風力、バイオマス等の再生可能エネルギーで発電した電力を、電気事業者が一定価格で一定期間買い取ることを国が約束する制度であります。

(※11) FIP制度：

再生可能エネルギー発電事業者が発電した電気を卸電力取引市場や相対取引で売電をした場合に、基準価格（FIP価格）と市場価格の差額をプレミアム額として交付する制度のことであります。

(※12) オンサイトPPAモデル：

当社グループが発電事業者として、自家消費型太陽光発電所等の所有・維持管理等を行い、当該発電所等から発電された電力を需要家に供給する契約方式のことであります。

(※13) デマンドレスポンス（DR）：

需要家側エネルギーリソース（※18）の保有者若しくは第三者が、そのエネルギーリソースを制御することで、電力需要パターンを変化させることであります。

(※14) バーチャルパワープラント（VPP）：

IoT技術を活用して分散型エネルギーリソースを遠隔から統合制御し、1つの発電所のように機能させることによって、電力の需給バランスを調整することです。

(※15) エネルギーリソース：

電気や熱等のエネルギーを供給又は貯蔵することができる設備（発電システム、蓄電池システム、ボイラ）等のことであります。

(※16) ERAB（Energy Resource Aggregation Businesses）：

DRやVPPを用いて、一般送配電事業者、小売電気事業者、需要家、再生可能エネルギー発電事業者といった取引先に対し、調整力、インバランス（※19）回避、電力料金削減、出力制御回避等の各種サービスを提供することです。

(※17) PKS：

Palm Kernel Shellの略称で、パーム椰子の種からパーム油を搾油した後に残った椰子殻のことであります。

(※18) 需要家側エネルギーリソース：

需要家の受電点以下（behind the meter）に接続されているエネルギーリソース（発電設備、蓄電設備、需要設備）を総称するものであります。

(※19) インバランス：

電気の小売供給において小売電気事業者が事前に策定した需要調達計画と実績の差分のことであります。

(2) 財政状態に関する説明

(流動資産)

当第3四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末に比べ3,387百万円増加し、39,409百万円となりました。主な要因は、合同会社福岡みやこソーラーパワーを営業者とする匿名組合の連結子会社化等による現金及び預金の増加2,220百万円、並びにエンジニアリング事業のEPCに係る完成工事未収入金の増加1,312百万円、前渡金の増加1,787百万円及び契約資産の減少2,562百万円等であります。

(固定資産)

当第3四半期連結会計期間末の固定資産は、前連結会計年度末に比べ27,284百万円増加し、110,390百万円となりました。主な要因は、合同会社福岡みやこソーラーパワーを営業者とする匿名組合の連結子会社化等による機械装置及び運搬具の増加10,939百万円及び契約関連無形資産の増加4,416百万円、並びに「佐賀伊万里バイオマス発電所」等の建設仮勘定の増加6,461百万円等であります。

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末の流動負債は、前連結会計年度末に比べ8,446百万円増加し、31,695百万円となりました。主な要因は、連結子会社による短期借入金の増加2,438百万円、合同会社福岡みやこソーラーパワーを営業者とする匿名組合の連結子会社化等による1年内返済予定の長期借入金の増加2,100百万円及びエンジニアリング事業のEPCに係る契約負債の増加3,133百万円等であります。この内、合同会社福岡みやこソーラーパワーを営業者とする匿名組合に係る1年内返済予定の長期借入金の主な増加につきましては、連結子会社化に伴って合同会社福岡みやこソーラーパワーを営業者とする匿名組合の流動負債を連結したものであり、当第3四半期連結累計期間に新たに借入を行ったものではありません。

(固定負債)

当第3四半期連結会計期間末の固定負債は、前連結会計年度末に比べ20,382百万円増加し、74,465百万円となりました。主な要因は、合同会社福岡みやこソーラーパワーを営業者とする匿名組合の連結子会社化等による長期借入金の増加17,280百万円等であります。この内、合同会社福岡みやこソーラーパワーを営業者とする匿名組合に係る長期借入金の主な増加につきましては、連結子会社化に伴って合同会社福岡みやこソーラーパワーを営業者とす

る匿名組合の固定負債を連結したものであり、当第3四半期連結累計期間に新たに借入を行ったものではありません。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ1,842百万円増加し、43,638百万円となりました。主な要因は、連結子会社による長期為替予約に係る繰延ヘッジ損益の増加2,435百万円及び配当金の支払等による利益剰余金の減少525百万円等であります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2024年11月5日の「業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

なお、当該連結業績予想につきましては、同資料の発表日時点において当社グループが入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,339	20,559
受取手形	321	161
売掛金	1,833	2,563
完成工事未収入金	0	1,313
契約資産	4,644	2,081
商品及び製品	200	85
仕掛品	93	151
未成工事支出金	44	64
不動産事業支出金	1,675	1,528
原材料及び貯蔵品	340	425
前渡金	6,442	8,229
その他	2,091	2,257
貸倒引当金	△6	△12
流動資産合計	36,022	39,409
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	4,270	5,143
減価償却累計額	△1,181	△1,417
減損損失累計額	△757	△760
建物及び構築物（純額）	2,331	2,966
機械装置及び運搬具	45,746	60,436
減価償却累計額	△13,104	△16,768
減損損失累計額	△3,128	△3,214
機械装置及び運搬具（純額）	29,514	40,453
工具、器具及び備品	272	294
減価償却累計額	△194	△186
減損損失累計額	△0	△0
工具、器具及び備品（純額）	76	107
土地	5,217	5,217
リース資産	2,287	2,290
減価償却累計額	△1,534	△1,617
減損損失累計額	△36	△37
リース資産（純額）	717	636
建設仮勘定	23,261	29,723
有形固定資産合計	61,118	79,104
無形固定資産		
のれん	559	534
契約関連無形資産	6,421	10,838
その他	634	4,029
無形固定資産合計	7,615	15,402
投資その他の資産		
投資有価証券	381	1,006
関係会社株式	1,270	1,228
関係会社出資金	1,224	22
繰延税金資産	2,750	2,749
デリバティブ債権	5,676	7,665
その他	3,069	3,211
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	14,372	15,883
固定資産合計	83,106	110,390
資産合計	119,128	149,800

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,125	1,302
工事未払金	1,206	1,517
短期借入金	13,250	15,688
1年内返済予定の長期借入金	4,051	6,151
リース債務	295	400
未払法人税等	328	502
契約負債	1,759	4,893
賞与引当金	261	134
契約損失引当金	21	—
完成工事補償引当金	5	22
その他	944	1,082
流動負債合計	23,249	31,695
固定負債		
長期借入金	45,047	62,327
リース債務	3,002	4,737
繰延税金負債	2,769	3,485
資産除去債務	2,377	3,028
長期預り金	483	483
退職給付に係る負債	369	398
その他	32	3
固定負債合計	54,082	74,465
負債合計	77,332	106,161
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,760	6,760
資本剰余金	19,608	19,608
利益剰余金	14,715	14,189
自己株式	△0	△0
株主資本合計	41,083	40,557
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	—	△5
繰延ヘッジ損益	48	2,484
為替換算調整勘定	380	332
その他の包括利益累計額合計	429	2,811
非支配株主持分	283	269
純資産合計	41,796	43,638
負債純資産合計	119,128	149,800

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位: 百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年7月1日 至 2024年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年7月1日 至 2025年3月31日)
売上高	22,858	26,788
売上原価	17,807	20,584
売上総利益	5,051	6,203
販売費及び一般管理費	2,978	3,533
営業利益	2,073	2,669
営業外収益		
受取利息	4	24
受取配当金	10	5
有価証券売却益	0	—
受取保険金	21	50
受取賃貸料	63	62
持分法による投資利益	48	74
為替差益	67	—
匿名組合投資利益	6	333
デリバティブ評価益	2,316	—
保険解約返戻金	23	7
補助金収入	22	242
その他	64	106
営業外収益合計	2,649	908
営業外費用		
支払利息	543	883
デリバティブ評価損	—	1,816
固定資産圧縮損	28	196
支払手数料	53	199
新株予約権発行費	141	—
為替差損	—	182
その他	184	74
営業外費用合計	951	3,352
経常利益	3,771	225
特別利益		
投資有価証券売却益	—	513
負ののれん発生益	—	471
特別利益合計	—	985
特別損失		
段階取得に係る差損	—	292
特別損失合計	—	292
税金等調整前四半期純利益	3,771	919
法人税等	1,252	216
四半期純利益	2,518	702
非支配株主に帰属する四半期純利益	120	85
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,398	616

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年7月1日 至 2024年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年7月1日 至 2025年3月31日)
四半期純利益	2,518	702
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△7	△5
繰延ヘッジ損益	35	2,435
為替換算調整勘定	177	4
持分法適用会社に対する持分相当額	47	△54
その他の包括利益合計	252	2,379
四半期包括利益	2,770	3,081
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,499	2,998
非支配株主に係る四半期包括利益	271	83

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(セグメント情報等の注記)

I 前第3四半期連結累計期間(自2023年7月1日 至2024年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	合計 (注) 2
	エンジニアリング事業	エネルギーサプライ事業	計		
売上高					
一時点で移転される財	714	10,892	11,606	—	11,606
一定の期間にわたり移転される財	8,622	2,628	11,251	—	11,251
顧客との契約から生じる収益	9,337	13,521	22,858	—	22,858
外部顧客への売上高	9,337	13,521	22,858	—	22,858
セグメント間の内部売上高又は振替高	2,775	—	2,775	△2,775	—
計	12,112	13,521	25,633	△2,775	22,858
セグメント利益又は損失(△)	△4	1,820	1,816	256	2,073

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額には、セグメント間取引消去及び全社費用が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自2024年7月1日 至2025年3月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	合計 (注) 2
	エンジニアリ ング事業	エネルギー サプライ事業	計		
売上高					
一時点で移転される財	1,000	12,382	13,383	—	13,383
一定の期間にわたり移転される財	10,811	2,593	13,404	—	13,404
顧客との契約から生じる収益	11,811	14,976	26,788	—	26,788
外部顧客への売上高	11,811	14,976	26,788	—	26,788
セグメント間の内部売上高又は振替 高	1,387	1	1,388	△1,388	—
計	13,199	14,977	28,176	△1,388	26,788
セグメント利益又は損失（△）	775	2,082	2,857	△187	2,669

(注) 1. セグメント利益又は損失（△）の調整額には、セグメント間取引消去及び全社費用が含まれております。

2. セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

「エネルギーサプライ事業」において、合同会社福岡みやこソーラーパワーを営業者とする匿名組合に係る出資持分の全部を取得し子会社化したことに伴い、負ののれんが発生しております。これにより、当第3四半期連結累計期間において負ののれん発生益471百万円を特別利益として計上しております。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額並びに負ののれん発生益は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 （自 2023年7月1日 至 2024年3月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2024年7月1日 至 2025年3月31日）
減価償却費	2,344百万円	3,246百万円
のれんの償却額	24	24
負ののれん発生益	－	471

独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2025年5月14日

テスホールディングス株式会社
取締役会 御中

オリエント監査法人
大阪事務所

指定社員
業務執行社員 公認会計士 岡本 徹

指定社員
業務執行社員 公認会計士 前田 佳久

指定社員
業務執行社員 公認会計士 小野坂 幸一

監査人の結論

当監査法人は、四半期決算短信の「添付資料」に掲げられているテスホールディングス株式会社の2024年7月1日から2025年6月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2025年1月1日から2025年3月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2024年7月1日から2025年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して四半期連結財務諸表を作成することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一

般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

（注） 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社（四半期決算短信開示会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータ及びHTMLデータは期中レビューの対象には含まれていません。